上野西部地区住民自治協議会
教育文化芸術部会　　探訪シリーズ　NO．１５
≪ 人物編 ≫

西嶋八兵衛之友（ゆきとも）について

上野紺屋町正崇寺の山門前に『西嶋八兵衛墓地』と記された石碑が、建てられています。今回は正崇寺に眠る西嶋家の初代・八兵衛について紹介します。

慶長元年（1596 年）遠州浜松に生まれた八兵衛は、幼少期よりその才能を藤堂高虎に見込まれ、17 歳で召し抱えられます。常に側近として仕え大坂夏の陣に参戦後、二条城・大坂城の改修に携わり土木技術を学ぶと、その後 26 歳の時に藤堂家と姻戚関係にあった四国高松藩生駒家へ派遣されました。折しも西日本一帯では大旱魃（かんばつ）（世界的な寒冷期）による飢饉が各地で起こる中、治水と灌漑土木事業に着手しました。特に空海が、かって改修したこともある満濃池（周囲 20ｋｍで日本一の大きさ。）の改修工事では大きな成果を上げました。

その後藩主改易の為 51 歳で藤堂藩に復帰すると、2 代目高次の下江戸加判役を務め、翌正保 3 年（1646 年）伊賀へ戻り新田開発に着手後、53 歳の時城和奉行となり、亡くなる 4 年前の 81 歳まで治水と農業生産の基盤整備に力を注ぎました。

その偉業は現在まで脈々と受け継がれ、人々の生活を支え今も生かされています。香川県まんのう町と津市内では、郷土の恩人として銅像を建ててその功績を称えているように、伊賀は元より、各地で多くの人が顕彰を重ね、敬愛を深めています。

出展・参考資料：『伊賀市史』　『伊賀の郷土史あれこれ』
協　力　：　正崇寺

「正崇寺」山門

山門前　石　碑

津市内の銅像
（丸の内商店街振興会建立）

西嶋八兵衛　肖像画
（正崇寺　蔵）